

科目名	自然科学Ⅱ				担当者	河原 一仁			
単位数	2	時間数	40	年次	1	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
①クライアントに対する面談、体力評価等を学ぶことで、人間の身体に関する知識、理解を深めることを目的とする。									
②スポーツ現場等で緊急時の対応する際に最低限必要な疾患知識、評価技術を習得する。									
③パーソナルトレーニングにおける法的諸問題を習得する。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	オリエンテーション								
2	面談および体力評価								
3	面談および体力評価								
4	面談および体力評価								
5	面談および体力評価								
6	面談および体力評価								
7	面談および体力評価								
8	面談および体力評価								
9	面談および体力評価								
10	法的諸問題								
11	法的諸問題								
12	法的諸問題								
13	法的諸問題								
14	緊急時の対応								
15	緊急時の対応								
16	バイタルサインの基礎知識・実技								
17	バイタルサインの基礎知識・実技								
18	バイタルサインの基礎知識・実技								
19	バイタルサインの基礎知識・実技								
	定期試験								
20	まとめ								
教科書	NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識				参考書				

科目名	自然科学IV				担当者	毛利 清楓			
単位数	2	時間数	40	年次	1	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
人体について学習を始めるにあたり、筋骨格系の構造と機能を理解する。主に解剖学の第 2 章(運動系)を中心に学習を行い、解剖学の導入を目的とする。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	運動器 骨下肢 下肢帯								
2	運動器 骨下肢 大腿								
3	運動器 骨下肢 下腿								
4	運動器 骨下肢 足の骨								
5	運動器 下肢の骨まとめ								
6	運動器 筋下肢 下肢帯								
7	運動器 筋下肢 下肢帯								
8	運動器 筋下肢 大腿								
9	運動器 筋下肢 下腿								
10	運動器 筋下肢 下腿								
11	運動器 筋下肢 足の筋								
12	運動器 下肢の筋まとめ								
13	運動器 筋体幹 胸部								
14	運動器 筋体幹 腹部								
15	運動器 筋体幹 背部								
16	運動器 筋体幹 まとめ								
17	運動器 下肢・体幹の骨筋まとめ								
18	運動器 下肢・体幹の骨筋まとめ								
19	運動器 下肢・体幹の骨筋まとめ								
	定期試験								
20	まとめ								
教科書									
解剖学 第 2 版					参考書				

科目名	解剖学 I				担当者	山田 眞知子			
単位数	4	時間数	80	年次	1	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
医療に従事する人達、すべての基礎となるのが解剖学です。									
人体の構造を理解することは、人体の機能(生理学)を学習していく土台となるものです。									
人体を構成する様々な細胞、組織、器官、臓器がどのように協調しながら、1つの個体を形作っているのかを学習します。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
中間試験 20%、定期試験 70%、平常点 10%の合計で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	解剖学 概説			21	頭蓋骨				
2	解剖学 概説			22	頭蓋骨				
3	細胞および組織			23	頭蓋骨				
4	細胞および組織			24	頭部の筋				
5	細胞および組織			25	頭部の筋				
6	細胞および組織			26	内臓系総論				
7	発生			27	消化器				
8	脈管系 総論			28	消化器				
9	心臓			29	消化器				
10	心臓			30	消化器				
11	心臓			31	消化器				
12	動脈系			32	呼吸器				
13	動脈系			33	呼吸器				
14	動脈系			34	呼吸器				
15	静脈系			35	呼吸器				
16	静脈系			36	神経組織				
17	胎児循環			37	中枢神経系の区分				
18	リンパ管系			38	消化器・呼吸器まとめ				
19	リンパ管系				定期試験				
20	循環系 まとめ 中間試験			39	まとめ				
教科書	解剖学 第2版			参考書					

科目名	解剖学Ⅱ				担当者	山田 眞知子			
単位数	4	時間数	80	年次	1	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
医療に従事する人達、すべての基礎となるのが解剖学です。									
人体の構造を理解することは、人体の機能(生理学)を学習していく土台となるものです。									
人体を構成する様々な細胞、組織、器官、臓器がどのように協調しながら、1つの個体を形作っているのかを学習します。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
定期試験 70%、中間試験 20%、平常点 10%の合計で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	生殖器			21	脊髄神経(筋・骨格と合わせて)				
2	生殖器			22	脊髄神経(筋・骨格と合わせて)				
3	生殖器			23	脊髄神経(筋・骨格と合わせて)				
4	生殖器			24	脳神経				
5	内分泌			25	脳神経				
6	内分泌			26	脳神経				
7	内分泌			27	脳神経				
8	内分泌			28	自律神経				
9	神経組織			29	自律神経				
10	中枢神経系の区分			30	感覚器				
11	脳室・髄膜と脳脊髄液			31	感覚器				
12	脳			32	感覚器				
13	脳			33	感覚器				
14	脳			34	感覚器				
15	脳			35	神経系 まとめ				
16	脳			36	神経系 まとめ				
17	脊髄			37	内臓系 まとめ				
18	脊髄			38	内臓系 まとめ				
19	脊髄				定期試験				
20	脊髄神経(筋・骨格と合わせて)		中間試験	39	まとめ				
				40	まとめ				
教科書	解剖学 第2版				参考書				

科目名	生理学 I					担当者	吉川 崇倫		
単位数	4	時間数	80	年次	1	履修期	通期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
<p>生理学は、生物が示す生命現象の機序を明らかにすることを目的とした学問である。</p> <p>本講義では、人体の生命現象を対象として人体生理学に主眼をおき、ヒトの呼吸、循環系、筋・運動系、神経系、感覚系、消化器系、エネルギー系、内分泌系および恒常性(ホメオスタシス)について概説するとともに基本的理解を深める。</p>									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
定期試験のみで評価する。									
【注意事項】									
予習・復習を行って下さい。									
【講義計画】									
1	生理学総論 1 生理学とは、細胞の構造と機能	21	体温とその調節 1 熱産生と熱放散						
2	生理学総論 2 物質の移動、体液の区分と組成	22	体温とその調節 2 体温調節						
3	血液 1 血液の成分と組成	23	尿の生成と排泄 1 腎臓の構造と機能						
4	血液 2 止血	24	尿の生成と排泄 2 尿の生成						
5	血液 3 血液型、免疫	25	尿の生成と排泄 3 腎血流量						
6	循環 1 心臓	26	尿の生成と排泄 4 腎臓による体液の調節						
7	循環 2 血管	27	内分泌 1 内分泌とは						
8	循環 3 循環調節	28	内分泌 2 視床下部・下垂体ホルモン						
9	呼吸 1 呼吸器系の構造	29	内分泌 3 甲状腺・副甲状腺ホルモン						
10	呼吸 2 換気	30	内分泌 4 副腎皮質ホルモン						
11	呼吸 3 ガス交換と運搬	31	内分泌 5 副腎髄質ホルモン・膵臓ホルモン						
12	呼吸 4 呼吸周期の調節	32	内分泌 6 男性ホルモン						
13	消化と吸収 1 消化器系の構成とはたらき	33	内分泌 7 女性ホルモン						
14	消化と吸収 2 食物の消化と吸収 1	34	感覚の生理 1 感覚の一般特性						
15	消化と吸収 3 食物の消化と吸収 2	35	感覚の生理 2 特殊感覚(視覚)						
16	消化と吸収 4 肝臓	36	感覚の生理 3 特殊感覚(聴覚)						
17	消化と吸収 5 各栄養素の消化と吸収	37	感覚の生理 4 体性感覚 1						
18	栄養と代謝 1 生体に必要な栄養素	38	感覚の生理 5 体性感覚 2						
19	栄養と代謝 2 エネルギー代謝(ATP)	39	感覚の生理 6 体性感覚 3						
	定期試験		定期試験						
20	栄養と代謝 3 栄養素の代謝	40	まとめ						
教科書	生理学第4版/南江堂					参考書			

科目名	生理学Ⅱ					担当者	吉川 崇倫			
単位数	2	時間数	40	年次	1	履修機	後期	授業方法	講義	
【講義内容・目的】										
生理学は、生物が示す生命現象の機序を明らかにすることを目的とした学問である。 本講義では、人体の生命現象を対象として人体生理学に主眼をおき、ヒトの呼吸、循環系、筋・運動系、神経系、感覚系、消化器系、エネルギー系、内分泌系および恒常性(ホメオスタシス)について概説するとともに基本的理解を深める。										
【実務経験による特色】										
【成績評価方法】										
定期評価のみで評価する。										
【注意事項】										
予習・復習を行って下さい。										
【講義計画】										
1	神経の生理 1 ニューロンの構成、静止膜電位									
2	神経の生理 2 興奮の伝導(活動電位)									
3	神経の生理 3 興奮の伝達									
4	神経の生理 4 神経伝達物質、受容体									
5	神経の生理 5 中枢神経系 1(脊髄)									
6	神経の生理 6 中枢神経系 2(脳幹)									
7	神経の生理 7 中枢神経系 3(間脳)									
8	神経の生理 8 中枢神経系 4(大脳基底核)									
9	神経の生理 9 中枢神経系 5(大脳新皮質)									
10	神経の生理 10 中枢神経系 6(連合野)									
11	筋の生理 1 筋の分類、骨格筋の構造									
12	筋の生理 2 筋収縮のしくみ									
13	筋の生理 3 筋線維の分類、筋収縮の様式									
14	運動の生理 1 運動の調節									
15	運動の生理 2 運動神経と運動単位									
16	運動の生理 3 脊髄による反射と調節 1(伸張反射)									
17	運動の生理 4 脊髄による反射と調節 2(その他)									
18	運動の生理 5 脳幹による運動調節									
19	運動の生理 6 高次運動機能									
	定期試験									
20	テスト解説									
教科書	生理学第4版/南江堂					参考書				

科目名	基礎柔道整復学 I					担当者	外山 日登志		
単位数	3	時間数	60	年次	1	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
・現在における柔道整復師の果たすべき役割、業務範囲などを理解し、各組織の損傷の特徴、評価方法、治療法の基礎を理解することを目的とする。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
定期試験素点のみで評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	柔道整復 概説					23	脱臼の整復法・軟部組織損傷の初期処置		
2	骨の損傷①					24	復習②		
3	骨の損傷②					25	固定法		
4	骨の損傷③					26	後療法①(手技・運動療法)		
5	骨の損傷④					27	後療法②(物理療法)		
6	骨折の固有症状・一般外傷症状					28	指導管理・外傷予防		
7	骨折の合併症①(併発症)					29	総復習		
8	骨折の合併症②(続発症)						定期試験		
9	骨折の合併症③(後遺症)					30	まとめ		
10	小児・高齢者の骨折								
11	骨折の癒合日数・治癒に与える因子								
12	骨折の総復習								
13	復習①								
14	関節の損傷①								
15	関節の損傷②								
16	脱臼の概説・分類								
17	脱臼の固有症状・一般外傷症状・合併症								
18	筋の損傷								
19	腱の損傷								
20	末梢神経の損傷								
21	診察								
22	骨折の整復法								
教科書	柔道整復学・理論編 改訂第 6 版					参考書	解剖学改訂第2版		

科目名	柔道整復実技 I					担当者	河原一仁		
単位数	2	時間数	80	年次	1	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
臨床実習やスポーツ救護をするにあたって必要な高齢者の身体や機能訓練に対する理解、ケガの知識や応急処置、障害予防技術の習得を目標とする。									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
各個人が技術を習得できるよう講義内確認テストを行い、その合計で評価する。									
【注意事項】									
指定された身なりでない場合、出席とみなしませんのでご注意ください。									
【講義計画】									
1	オリエンテーション、法的諸問題					24	テーピング:足関節		
2	トレーナーとは					25	テーピング:膝関節		
3	EAP作成					26	テーピング:膝関節		
4	スポーツ現場における救急対応の考え方					27	テーピング:膝関節		
5	RICE・POLICE					28	テーピング:膝関節		
6	搬送基本					29	テーピング:腰部		
7	搬送:頸椎固定					30	テーピング:腰部		
8	搬送:ログロール、ログリフト					31	テーピング:肩関節		
9	搬送:1人搬送、2人搬送					32	テーピング:肩関節		
10	確認テスト:搬送					33	テーピング:肩関節		
11	EAP作成					34	テーピング:肘関節		
12	CPR・AED					35	テーピング:肘関節		
13	CPR・AED					36	テーピング:手関節、手指		
14	確認テスト:CPR・AED					37	テーピング:手関節、手指		
15	柔道整復師と機能訓練					38	確認小テスト		
16	介護保険制度					39	確認小テスト		
16	高齢者の身体					40	復習		
18	コミュニケーション								
19	高齢者とのコミュニケーション								
20	まとめ								
21	テーピング:基礎								
22	テーピング:足関節								
23	テーピング:足関節								
教科書						参考書			
						アスレティックトレーナー専門科目テキスト			

科目名	柔道整復実技Ⅱ					担当者	入谷一生			
単位数	2	時間数	80	年次	1	履修期	通期	授業方法	実習	
【講義内容・目的】										
<ul style="list-style-type: none"> ・基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法など全身の被覆包帯を巻けるようになる。 ・用途を考えながら、適切な材料、圧、きれいさ、速さで巻けることを目標とする。 ・各固定材料を用いて固定具の作成ができる。 										
【実務経験による特色】										
【成績評価方法】										
各個人が技術を習得できるよう講義内確認テストを行い、その合計で評価する。										
【注意事項】										
指定のポロシャツ、短パン、白シューズを着用し実技セットを持参すること。										
【講義計画】										
1	固定・固定材料の種類					21	ヴェルポー包帯(右・左)			
2	手指消毒					22	ジュール包帯(右・左)			
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し					23	確認テスト②			
4	基本包帯法(環行帯・螺旋帯・蛇行帯)					24	三角巾による固定			
5	基本包帯法(折転帯)					25	さらしによる包帯			
6	基本包帯法(亀甲帯)					26	固定材料を用いた固定①(鎖骨骨折)			
7	基本包帯法(麦穂帯)					27	固定材料を用いた固定②(肩関節脱臼)			
8	部位別包帯法(手関節～前腕)					28	固定材料を用いた固定③(クラーメル副子)			
9	部位別包帯法(肘関節～肩関節)					29	固定材料を用いた固定④(肘関節脱臼)			
10	部位別包帯法(足関節～下腿)					30	固定材料を用いた固定⑤(足部損傷)			
11	部位別包帯法(復習)					31	固定材料を用いた固定⑥(足部損傷)			
12	確認テスト①					32	固定材料を用いた固定⑦(コーレス骨折)			
13	部位別包帯法(頭部)					33	固定材料を用いた固定⑧(コーレス骨折)			
14	部位別包帯法(顔面部)					34	固定材料を用いた固定⑨(アルミ副子)			
15	部位別包帯法(手関節部・手指部)					35	確認テスト③			
16	部位別包帯法(手指部)					36	デゾー包帯法(右)			
17	部位別包帯法(股関節部・大腿部・下腿部)					37	デゾー包帯法(左)			
18	部位別包帯法(足関節部・足趾部)					38	総復習			
19	部位別包帯法(足関節部・足趾部)						定期試験			
20	部位別包帯法(胸部・背部)					39	まとめ(テーデン上肢・下肢ほうか帯)			
20	部位別包帯法(胸部・背部)					40	まとめ			
教科書										
包帯固定学 改訂第2版										
参考書										

科目名	柔道整復実技Ⅲ					担当者	山田 修平		
単位数	2	時間数	80	年次	1	履修期	前期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
<ul style="list-style-type: none"> 骨のランドマーク、関節の触診、主要な筋の触診を学ぶ。 ROM、MMT など基礎的な測定方法を学ぶ。 									
【実務経験による特色】									
【成績評価方法】									
各個人が技術を習得できるよう講義内確認テストを行い、その合計で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	オリエンテーション				21	下肢骨のトレース			
2	解剖学用語				22	骨盤～膝部の骨の触診			
3	上肢骨のトレース				23	骨盤～膝部の骨の触診			
4	肩部の骨の触診				24	骨盤～膝部の骨の触診			
5	肩部の骨の触診				25	下腿～足部の骨の触診			
6	肩部の骨の触診				26	下腿～足部の骨の触診			
7	肘～手部の骨の触診				27	下肢の骨の触診(確認テスト)			
8	肘～手部の骨の触診				28	下肢の骨の触診(確認テスト)			
9	肘～手部の骨の触診				29	下肢の骨の触診(確認テスト)			
10	上肢の骨の触診(確認テスト)				30	下肢の ROM			
11	上肢の骨の触診(確認テスト)				31	下肢の ROM			
12	上肢の骨の触診(確認テスト)				32	下肢の ROM(確認テスト)			
13	測定・ROM(総論)				33	下肢の ROM(確認テスト)			
14	肩関節の ROM				34	下肢の ROM(確認テスト)			
15	肩関節の ROM				35	MMT			
16	肘～手関節の ROM				36	MMT			
17	肘～手関節の ROM				37	反射・病的反射			
18	上肢 ROM(確認テスト)				38	反射・病的反射			
19	上肢 ROM(確認テスト)				39	復習			
20	上肢 ROM(確認テスト)				40	総復習			
教科書	機能解剖学的触診技術 上肢 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 ／MEDICAL VIEW				参考書				

